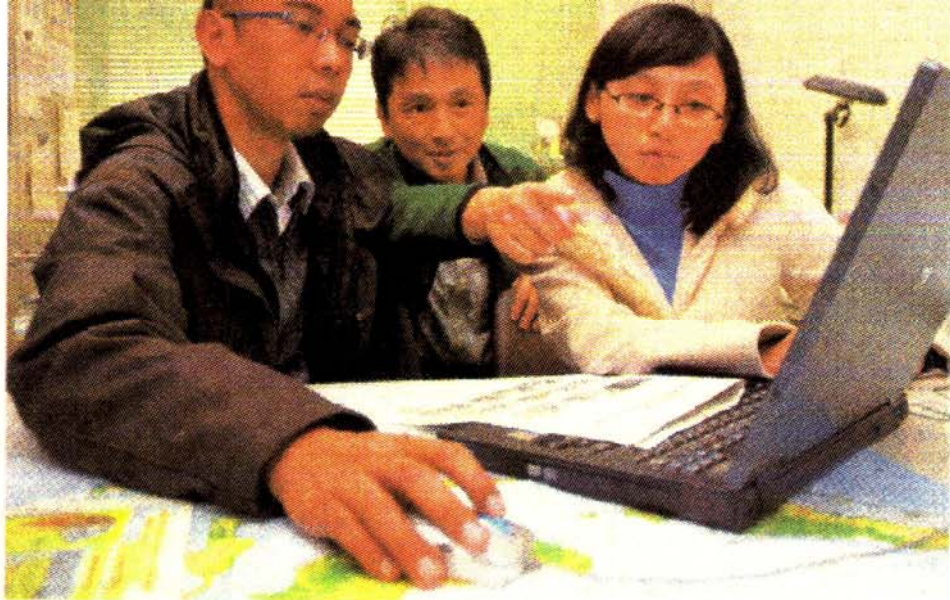


地震避難所、津波予測一目で

「東南海」備え リスクマップ

宮崎大工学部のインドネシア研究生二人が、発生する本県に大きな被害をもたらすと予測される東南海・南海地震を想定し、本県初のリスクマップの作製に取り組んでいる。第一号となる日向市版は本年度中に完成する予定で、適切な避難誘導の手引になると関係者は期待。二人は多くの犠牲者が出たインドネシア・トラ島沖地震を教訓に、本県で学んだノウハウを、他の研究にも生かしたい考えた。



リスクマップを作製しているインドラディさん（左）とミダさん（右）＝11日午後、宮崎市の宮崎大工学部

インドネシア スマトラ教訓、作製へ 宮崎大研究生

リスクマップは津波による浸水予測をはじめ、土地利用形態、土砂崩れが起きやすい急傾斜地、避難所などの情報を一元的に地図化したもの。

作製しているのは、昨年七月に県海外技術研修員となったインドラディ・ウィジャニコさん（三〇）と、宮崎大交換留学生のミダ・ムルヤニグ（三三）。指導教官の村上啓介、出口近士准教授とともに昨年八月から研究を始めた。

マグニチュード（M）8・3の東南海・南海地震が同時に発生し、沿岸部に五―六メートルの津波が押し寄せるといふ最も危険な想定。国の重要港湾があり人口が港周辺に密集している日向市と宮崎市を対象にした。宮崎市版は八月までに完成させる。

マップには地質、断層や道路情報、住宅密集地などの利用形態に加え、オイルタンクなどの危険物、急傾斜地の位置データなどを統合。二十項目の情報を重ね合わせることで、津波が発生した際の危険度がより詳しく分かる。

作製作業で連携している日向市総務課の危機管

理係は「リスクマップの活用にとどまらず、大雨による河川のはらんポイントも盛り込んだ新たな防災マップの参考にしたい」と歓迎する。

インドラディさんの研究のきっかけは、二〇〇四―〇七年の間、三回に及んだスマトラ島沖地震の津波被害。インドネシアに公的な避難施設がな

いた
め
設
持
三
日
デ
イ
し
れ
書
「
い
准
教
つ
り
入
分
か
で
き